

第4回三重NST研究会 特別講演

摂食・嚥下リハビリテーション -食べるリハビリテーション- 藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座 才藤栄一

抄録：

1. 食べることは高齢障害者の大きな喜びであり、摂食・嚥下障害への対応はそのQOLを考える上で欠かせない。また、食べる問題は医療現場にとどまらず、多くの関連職種が関わるが、他の日常生活活動と違って医学的危険が大きい問題である。

2. 摂食・嚥下障害という概念とそのリハビリテーションについて、陥りやすい二分法的畏、咽頭機能の易損性、原疾患、加齢の影響、などを通して考察する。

3. 摂食・嚥下障害の原疾患は、脳卒中を筆頭に中枢神経系疾患がその多くを占める。治療目標は安全かつ最良の摂食状態をつくることにある。身体所見では機能的評価が必要であり、videofluorography、videoendoscopyが有用な手段となる。プロセスモデルという新しい嚥下モデルが注目されている。治療帰結は、摂食・嚥下機能、摂食状態、医学的安定性で評価する必要がある。

4. 対応は、訓練、代償的手法、経管法、口腔ケア、薬物療法、外科的治療からなる。訓練は間接訓練と直接訓練からなる新しいスキルの学習である。代償的手法では体位・肢位効果、食物形態効果を勘案する。経管法には工夫が必要である。間欠的経管栄養法は我が国で発達した手法である。口腔ケアは摂食・嚥下障害介入の前提条件である。

略歴：

才藤栄一（サイウ イイチ）

51歳男性 東京生まれ 医学博士，日本リハビリテーション医学会専門医，日本脳卒中学会専門医

現 職：藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座教授

470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98 Tel：0562-93-2167，Fax：0562-95-2906

Webpage：http://www.fujita-hu.ac.jp/~rehabmed/index.html

職 歴：昭和55年慶應義塾大学医学部卒業，東海大学医学部大磯病院リハビリテーション室長，慶應義塾大学病院リハビリテーション科医長，東京都リハビリテーション病院医長などを経て，平成7年藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座助教授，平成10年4月より同講座教授，平成10年7月より同大学リハビリテーション専門学校長併任，平成12年7月より同大学リハビリテーション部統括部長併任，現在に至る。

著 書：摂食・嚥下の評価（ビデオ）. エスエス製薬（2001），摂食・嚥下リハビリテーション. 医歯薬出版（1998），摂食・嚥下リハビリテーションマニュアル. 医学書院（1996），リハビリテーション医療心理学キーワード. 文光堂（1995），医者が病気になったとき（監訳）. 中央書院（1994）など

社会活動：日本摂食・嚥下リハビリテーション学会理事長，日本リハビリテーション医学会理事，日本義肢装具学会理事，日本運動療法学会理事，日本FES研究会理事，Dysphagia Research Society理事（米国），Dysphagia (International Journal) 編集委員，日本臨床神経生理学会評議員，バイオメカニズム学会評議員，日本脊髄障害医学会評議員，など

専門領域：リハビリテーション医学，摂食・嚥下障害，歩行再建，リハビリテーション心理学，など